

# アドバンテスト・ビオトープについて

行田市民大学第5期環境グループ

## I はじめに

ビオトープとは、概ね生物の自然環境を人工的に復元した場所のことを言っている。日本固有の在来植物種を中心にナラやクヌギなどから成る森や草原、池が復元されている。そこには、植物を生産者とし、草食昆虫などの動物やそれらを捕食する動物等の消費者から成る自然の生態系も構成される。

こうした豊かな自然を保存管理し、環境保護に時には体験教育などに寄与している企業の努力の成果を見学することにした。

- 1 見学日時…平成26年6月20日(金)、10:00~12:00
- 2 管理者……株式会社 アドバンテスト群馬 R&D センター内 アドバンテストグリーン
- 3 場 所……群馬県邑楽郡明和町大輪336-1 アドバンテスト群馬 R&D センター内
- 4 予約連絡先:埼玉県加須市新利根1-5 アドバンテストグリーン
- 5 参加者……第5期生環境グループ10名
- 6 会社側……アドバンテストグリーン社長、ビオトープ管理士2名、他 社員2名

## II 施設の現状

- 1 従業員……障害者24名/従業員(内8割方重度判定者、軽度2名のみ) 障害者雇用・法定2%…  
現状2.7%
- 2 水 源……町水道からの工業用水を社内で分水…日量200t・ビオトープ導水…その後、  
700坪(2000㎡)の畑に散水。
- 3 管 理……敷地約17,000㎡。環境面に配慮し、除草剤、消毒薬などの薬剤なしで管理。  
池面積900㎡(水深約60~70cm)で水の滞留3日間。  
クヌギ、コナラを中心に雑木林をつくりたい。従来からの樹木はそのまま。  
里山特有の生物が生息するための管理。セイタカアワダチソウ、ハルジオン、アメリカザリガニ等の外来種は在来種に悪影響するため駆除する。
- 4 特 徴……小川や池、雑木林、ススキ草原など昔ながらの関東平野ではどこにでもあった自然景観の再現を目指して作られている。  
自然が豊かになり、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息している。
- 5 竣 工……平成13年4月
- 6 調 査……動植物のモニタリング調査を実施。  
フジバカマ(絶滅危惧種Ⅱ類)……環境省レッドデータブックミゾコウジュ(準絶滅危惧種)…… //  
などを確認  
アサザ(絶滅危惧種)……確認されたので当ビオトープ避難第1号種とした。

ダイサギ、オオタカ、オオルリ、ルリタテハ、アカトンボ、トウキョウダルマガエル、カナヘビ、セミの羽化等を確認

- 7 環境貢献と地域交流…ビオトープ内には自然環境が豊かに保たれ、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息している。子どもたちの学習(ザリガニ釣り、昆虫採集)に利用されたり、ビオトープの研究材料に活用されている。

### Ⅲ

#### 1 今回、観察できたおもな動植物

ミクリ、チガヤ、ホタルブクロ、フジバカマ、アサザ、ミゾコウジュ、クヌギ、コナラ、ガマコウゾ、カシ、シモツケ、マンサク、ウツギ、シオカラトンボ、オタマジャクシ、アメンボウ、カワニナ、ウシガエル

#### 2 写真



ミクリ



フジバカマの観察



フジバカマの葉(三裂葉)



アサザ



ガマ



動植物調査の月例報告例



ホタルブクロ



ホタルの発生用水流



観察のポイント表示



植物の名札(例:ウツギ)